

演習研究会 活動報告

一般社団法人 レジリエンス協会
演習研究会 座長上田悦久
2018年6月19日@定例会

研究会目的

企業の危機管理やBCPや防災計画などの、演習(訓練)に関する、担当者の「困りごと」や「悩みごと」の実務上の解決策の提案をすること。

メンバー

2016年4月開始 現在13名
座長:上田悦久; 副座長:田中弘明
菊池謙三、横本純夫、五十嵐雅祥、爰川知宏、上倉秀之、国貞至。中谷明男、川口整、小山和博、永橋洋典、北村和彦

活動実績

2016年度 12回 延べ66名参加
2017年度 13回 延べ72名参加
演習実施 計8回

2

具体的 目的・目標

目的

企業の危機管理やBCPや防災計画などの、演習(訓練)に関する、担当者の「困りごと」や「悩みごと」の実務上の解決策の提案をすること。

つまり

演習(訓練)の担当者が 上手くできないと悩んでいる状況に、実務的な解決策あるいはヒントを提言する。

目標

- 教科書的な‘あるべき姿’や‘方法論’を指摘するのではなく、実務的で具体的な提言としたい。
- 担当者が、“なるほど”、“そういうことだったか”と、納得できる内容としたい。

3

困りごとのデータ収集

具体的困りごと

研究会チーム	306項目
研究会演習結果	44項目
大規模地域防災訓練	56項目
	全406項目

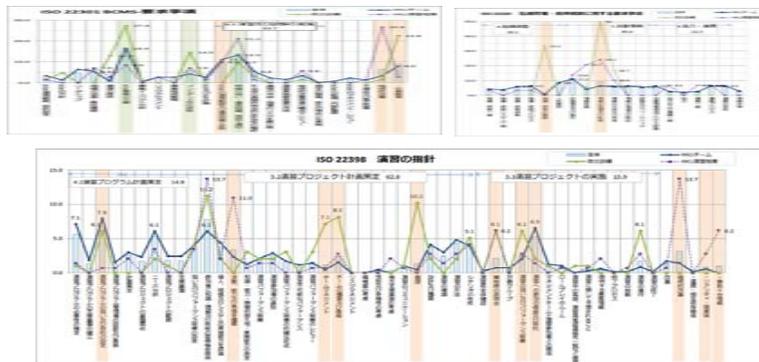
分析 — ISOガイドラインの活用

ISOガイドライン

ISO22301: BCMS要求事項
ISO22398: 演習の指針
ISO22320: 危機管理・指揮統制に関する要求事項

4

ISO分析結果



ISOガイドライン	
ISO22301 :BCMS要求事項	
8.5:演習及び試験の実施	(34.7%)
ISO22398 :演習の指針	
5.2:演習プロジェクト計画策定	(62.8%)
ISO22320 :危機管理-指揮統制に関する要求事項	
5:活動情報 (Operational Information)	(49.4%)

5

なにか違う？

- ISO分析の結果は、なにかしっくりこない。
- 当たり前の提案にしかならない懸念。



- 自分たちの感覚と言葉で分析する。
- 提言は、肌感覚でないと、効果がない。

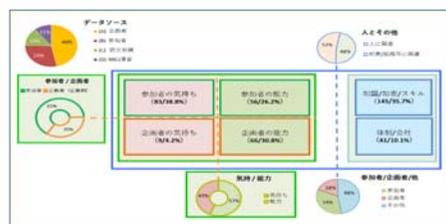


- 新たな分析、いわゆるKJ法(親和図法)で再分析。

6

親和性分析の結果

- ISO分析結果がすっきり来ないのは、
技量(知識・知恵・スキルや体制)習得の問題 とするからという疑問。



- 演習(訓練)の実施を考えているということは、
担当者は、スキルなど習得をしている、組織は、体制が出来ている、がそれでも解決できない、で悩んでいる。
- 参加者と企画者は人間であり、技量の習得や体制の課題としても、
解決しないのではないかな。

7

自己採点チェックリストの試作

- 人に関する悩みごとのグループごとに、問題点発見用の、チェックリストを作成する。
- ✓リストは担当者が自己診断でき、その結果に提言やヒントを提供する。
回答が二択で恣意的にならないような質問にする。
- 頓挫した。
 - 質問項目が、多数になってしまい、複雑で簡便ではなくなった。
 - 採点がむずかしい。
 - 採点結果と、提言がうまく連動しない。
- 反省:理想的な状態を決めずに、✓項目作成した。

理想像の作成 (現在進行中)

- 人に関するグループ項目について、
理想的な(最高の)状況を、規定する。
- 最高の(理想的な)状況が規定できれば、
そのための✓リストの項目や採点を再構築でき、
かつその結果に適切な提言が出来るのではないかな。

8